

窓 KEI SO

29

東大阪大学・
東大阪大学短期大学部附属
図書館

一日の計は晨に在り、
一年の計は春に在り
一日之計在晨、一年之計在春〔月令広義〕
その日の計画は朝のうちに立てるべきであり、
一年の計画は春、即ち年の初めの元日に立てるべきだ。
物事は計画的に。

研究室訪問



実践食物学科 教授 松井 欣也

2016年7月より東大阪大学短期大学部の実践食物学科に所属し、主に給食管理、臨床栄養学実習を担当。大阪府立公衆衛生専門学校卒業後、36年余り国立病院機構で栄養管理、給食管理に携わる。研究テーマは、重症心身障害児（者）の栄養管理、災害時の栄養管理、未来食材の昆虫食です。病院勤務や災害支援での経験も伝えたいと思っています。

—記憶の中、最初に自分で買った本は何でしょうか？
小学校の5年生だったと思いますが、お年玉で買った、少年少女世界の文学別巻2「ファープル」昆虫記（大岡信訳）です。昆虫は幼少の頃から興味があり、近所の草むらや公園でいろいろな虫を探していました。幼馴染と高校生になっても平岡公園、箕面公園、奈良公園などに行つて主に甲虫（カブトムシやクワガタなど）を捕りに行っていました。

—最近買った本は？
永松茂久の『リーダーの条件』です。JDA・DDAT（日本栄養士会災害支援チーム）のワークショップに参加する為の

参考書として購入。

—好きなジャンルは？

特にありませんが、健康、災害、昆虫に関する本に興味があります。

—本を買う時、ネット書店と本屋と、どちらをより多くご利用でしょうか？

以前は専門書が置いてある大阪市内の大手書店で購入していましたが、最近では時間節約のためにネットでの購入が増えました。

—いま、お手元に読んでいる本は？

『虫捕る子だけが生き残る』です。養老孟司、池田晴彦、奥本大三郎の昆虫好きの3人が、子どもたちの正しい育て方と人として生きるべき方向について書かれた本です。

—時々読み直す本はあるでしょうか？

西部邁の『学問』です。政治、国際関係、道徳、社交、「生きる」、歴史、哲学などについて、根源的なことをやさしく掘り下げて書かれた本です。新渡戸稲造の『武士道』は、人に勝ち、自分に克つ、強靱な精神力を鍛えることについて書かれた本なので時々読み直しています。

—もし蔵書の中一冊だけ選ぶなら、どの本を選びますか。その理由は？

齋藤孝の『言葉力こそが教養である』です。「言葉は身の文（あや）」という諺があります。話す言葉はその人の人格や品位までも表す、という意味の言葉です。言葉とは「教養」そのものです。しかもその「教養」は、会話の表現力や説明力に直結し、一瞬にして自分の知的レベルを映し出します。うまく表現できないもどかしさを感じている方には必読です。

—読書の醍醐味は？

読書の醍醐味の一つは、自分の先入観や固定観念、常識を覆され、視野が拡がり、新しい目で物事を眺められるようになること、いわゆる「目から鱗（うろこ）が落ちる」体験をすることではないでしょうか。

—座右の銘をお教えください。

「備えあれば憂いなし」普段から準備を怠らなければ、トラブルに巻き込まれたり、急を要することがあったりしても慌てずに対応できることを言い聞かせるように使われます。

—学生にぜひ読んでほしい本は？

高田晃『手帳で夢をかなえる全技術』手帳は単なるスケジュール帳ではない。究極の自己マネージメントツールだ！手帳を活用した目標達成メソッドで、自己実現のための方法論が書かれています。ステイブ・R・コヴィーの『7つの習慣』自分を変えるレッスン、スキルやテクニックではなく、人格自体を磨き上げることを重視して書かれています。

—読書について、学生、特に新入生へのアドバイスをお願いします。

どんな本でもいいので、毎日5分、10分の隙間時間で読書の習慣を身に付けてください。そして、書かれている文章の中で分からない漢字や熟語などが出てきたら直ぐに調べる習慣も身に付けてください。



一カ月後に泣きを見た。

国際教養子ども学科助教 横田 詩織

こどもの頃、母に絵本を読み聞かせてもらおうとして、忙しいからと断られたことがある。

小学校低学年の兄に加え、未就学児ふたり（わたしともうひとりの兄）を抱えていた母は日々家事に仕事に忙殺されていたのだろうが、当然幼子にそんな理屈は通じない。読んで読んできるとついでに回るのをどうにかしようと、「お父さんに読んでもらって」。思えば、わたしが活字中毒になっただけは、わたしは活字中毒になっただけ。結論から言ってしまうと、父の読み聞かせにわたしは満足できなかったの

である。一冊読んでもらって以降、父に読み聞かせをねだった記憶はとんとない。なんなら、読んであげようかという父の提案をすげなく断った記憶さえよみがえってきた。我ながら、気遣いとは無縁の幼児である。

そんなよく言えばこだわりの強い幼児がどのようにしたかというところ、こみようと四苦八苦していたのである。

読めない字をこれなあにと聞いて教えてもらえたのも最初の内だけで、小学生向けの国語辞典を渡されて以降、辞書と本をふたつ並べて読むようになった。

後は坂を転がり落ちるように本の虫の出来上がりである。家にある子ども向けの本を読みつくし、小学生になったと思えば図書室の本たちを制覇、市立図書館の児童書コーナーも読みつくしてとうとう読むものがなくなった。一般書コーナーは小学生にはまだ早いと母親が厳しく目を光らせて出入りを禁じていたし、かといって新しい本を買ってもらえるほど経済的に余裕もなかったのだ。

こうなってくると、少ないお小遣いの範囲で買う本も「コスパ」を考えるようになる。一カ月のお小遣いすべて使って買えるのはマンガ本か文庫本一冊だけ。マンガは十数分で読み終わってしまいうけど文庫本なら一時間弱は楽しめる……といった具合である。

おわかりだろう、深刻な活字中毒

である。小学生の頃は休み時間もずっと本を読んでいたもので、当然のように友人らしい友人はいなかった。見かねた同級生にいい加減休み時間に本を読むのをやめろ、友だちを作れと説教されたこともある。

その後なんとかかほどほどに社会性を獲得し大学に進学、ひとり暮らしが始まるとひと月経たずアパートの自室は本の山がそびえるようになった。これ寝てる間に地震来たら本に埋もれて死ぬなお前、とは当時私の部屋を訪れた友人たちがそろって述べた感想である。すべての本の山をきちんと自分の寝ている足下側に構築していたことに気づいてもらえなかったことは至極残念だが仕方ない。得てしてこだわりとはわかりにくいものなのである。

そんな活字中毒者が覚えているではないもの、それはやはり電子書籍である。数年前から市場が拡大し続けていくのを横目に、アレに手を出したらさらに歯止めがかからなくなって

マズいのでは？と恐々としていたところ、やって来たのがコロナ禍である。図書館という楽園が閉鎖され、積み上がる本の山たちはここ数年これ以上新顔を増やしてくれるなど日夜無言のプレッシャーをかけ続けてくる。折よく、いやいや折悪く始まった某電子書籍販売サイトの一斉値引きキャンペーン。気づけば会員登録した私のアカウントには百冊を優に超える電子書籍のリストができていた。

ちょっと高いから自分で買わずに図書館で借りよう、なんて思っていたはずの本まで素知らぬ顔で紛れ込んでいる。ぜったい好きだから読んでほしいと十数年来の付き合いである友人が勧めてきたのに生返事を返した少年マンガや、かなりニッチな需要を攻めたお高い事典類までそろい踏みだ。感染症で入院すると消毒できない紙の本は持って入れないのだ、と風の噂に聞いたので大義名分もバッチリである。クレジットカードの請求は見なかったことにした。



図書館開催イベント



2022年度 後期「学生選書」

本年度2回目となる学生選書は、これまでコロナ禍の影響により見送られていた「書店ツアー」を再開し、「WEB選書」も継続することで、どちらかを選んで参加できる開催方法としました。

- 書店ツアー：2022年11月30日(水)ジュンク堂書店大阪本店
- WEB選書：2022年12月1日(木)～12月5日(月)

参加学生8人がそれぞれ興味のある本、図書館に置いてほしい本を選びました。選ばれた58冊の図書は、図書館1階の「学生選書コーナー」に並んでいます。貸し出しもできますので、皆さんぜひご利用ください。

参加者の感想

- ・普段は自分から見に行くことのないジャンルなども見ることができて楽しかった。
- ・興味のある本を選ぶことができてよかったです。
- ・本を手にとって中身を確認できるのがよかったです。
- ・これまで3回選書に参加しましたが、自分の読みたい本や気になっている本を図書館に入れてもらえるというのは、とても良いと思います。

講演会

「絵本の楽しみ方」

2022年12月17日(土)図書館主催(こども研究センター共催)による講演会を開催しました。

「絵本の楽しみ方」と題して、福音館書店こどものとも第二編集部編集

長の^{いちのへ}戸 ^{ちかこ}盟子氏をお招きしました。

絵本作りの裏話を楽しくご紹介いただいたり、子どもに絵本を読む際のアドバイスはとても参考になり、絵本の楽しみ方を再発見することができました。普段聴くことのできない貴重なお話はとても興味深いものでした。

こども研究センターで開催されている「親子で遊ぼう」とコラボした企画となっており親子での参加も多くありま

したので、会場内は賑わいのある明るい雰囲気の講演会となりました。



2022年度

「手作り絵本コンクール」受賞作品

昨年初めて開催された「手作り絵本コンクール」を本年も開催しました。昨年を上回る48作品のエントリーがあり、学生の皆さんによる投票の結果、6作品の受賞となりました。

最優秀賞

『たべたい！たべたい！』
実践食物学科 2年 大谷さん

優秀賞

『おべんとう』
こども学科 3年 松山さん

優秀賞

『きせつ』
実践保育学科 2年 岸本さん

佳作

『だ～れだ？』
こども学科 3年 増田さん

佳作

『できるかな？』
実践保育学科 2年 浅田さん

佳作

『リサイクル』
実践保育学科 2年 小熊さん



受賞された皆さんおめでとうございます。また、多くの皆さんにエントリーしていただき、投票にも参加していただき、誠にありがとうございました。

おめでとう
ございます！

教員推薦図書

図書館運営委員会
こども学科 教授
渡邊 ルリ 推薦

RECOMMENDATION

1 『ファンタジーの世界地図 ムーミン谷からナルニア国、ハリー・ポッターまで』

編者：ヒュー・ルイス＝ジョーンズ 翻訳：栗原 紀子 出版：東京堂出版、2019年9月、12,000円(税抜)



(請求記号 902.3/F14)

ムーミン谷やナルニア国と聞いて頭に浮かぶのは、アニメーションや映画の場面かもしれません。ハリー・ポッターの魔法学校 hogwarts や、「いたずら完了!」と閉じる「忍びの地図」は、よく知られているでしょう。この本では、さまざまなファンタジー作品の世界を構想した「地図」が、現代の作家、イラストレーター、映画制作者、アーティストたちのエッセイによって紹介されています。

好きなファンタジーの世界を地図によってイメージするだけでなく、執筆者の多くが触れているのは、5歳のときに迷子になった動物園や、家族と歩いた道など、自分を

取り巻いていた世界と、そこで出逢った人々との追憶です。実際に自分がいた場所の地図を描いたり、まだ行ったことのない国や地域の地図を眺めたり、探検記や旅行記の足跡に思いを馳せたりすることも、ファンタジーの入口になっているようです。

もし、学生さんたちが今いる場所を地図にしたら、どれだけの広さで、どんなスポットがあるのでしょうか?

4月に作った地図は、だんだん広がって、スポットがどんどん増えていくのかもしれない。

RECOMMENDATION

2 『時間はなぜあるのか? チンパンジー学者と言語学者の探検』

著者：平田 聡・嶋田 珠巳

出版：ミネルヴァ書房、2022年3月、2,200円(税抜)

「時間」は、私たちの「思い」と関わりなく過ぎていきますが、一方、私たちが「時間」を感じる感覚は、状況や人それぞれで変化します。この本は、4歳の子どもが「きょうはさ、あしたやからさ」(きのう「あした」と言っていたのが「きょう」のこと)という世界観から始まって、物語『スイミー』の時間、チンパンジーの記憶と時間、人間の脳がとらえる時間についてなど、具体的な事例を挙げて検証するさまをわかりやすく解説し、読者が実感できるリアルな時間感覚に導きます。

私たちが世界を感じている「今」のこと。過ぎ去ったけれど記憶していること。経験したけれど忘れてしまっていること。そして「生」とは。こんなことを、あらためて考えさせてくれる本です。



(請求記号 141.27/H68)

RECOMMENDATION

3 『風刺画が描いた JAPAN 世界が見た近代日本』

著者：若林 悠

出版：国書刊行会、2021年11月、3,800円(税抜)

風刺画といえば、中学校の社会の教科書によく載っていた、〈日本と中国が左右の岸から魚(朝鮮)を釣ろうしているのを中央の橋の上からロシアが狙っている〉、フランス人画家ビゴーの画を思い出す人が多いかもしれません。

この本は、1860年代から1940年代までに世界各国で発表された風刺画と漫画を集めて解説したもので、日露戦争当時(1904年)のドイツの漫画など、一般にはあまり知られていなかったものもあります。世界の激動の時代、風刺画の中ではロシアが熊、イギリスがライオン、のように各国が動物になっていたり、〈戦争の魔人アレス〉が鞭を持って国々を走らせたりしています。

人物のセリフの訳や解説を読みながら画を見ると、戦争や条約締結など、描いた国によって立場や思惑が違ってきますし、1つの事件を描いた時期によっても、もの見方が変わっていくことがわかります。



(請求記号 210.6/W17)



データでみる
図書館

2022年12月末現在のデータ

図書(和書) 78,834冊
図書(洋書) 6,709冊
視聴覚資料 3,763タイトル
雑誌 613タイトル

2022年1月～12月の利用数

貸出冊数 891冊
入館者数 1,702人

窓

29

2023年4月1日発行

編集・発行

東大阪大学・
東大阪大学短期大学部
附属図書館

大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1

TEL 06-6782-2837

FAX 06-6782-2839

http://www.higashiosaka.jp/~library/

